

平成22年度 森プロ事業実績：福岡柏原里山整備プロジェクト

(平成23年3月末現在)

	H21年度	H22年度				5カ年	
	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	50	120	65	54%		408	
作業道(m)	3,920	3,018	3,520	117%	作業路含む	15,628	
間伐等	面積(ha)	11	76	45	59%	利用+切捨	329
	材積(m3)	1,017	2,760	2,575	93%	支障木含む	11,600
備考	その他団地外実績(利用間伐:2.35ha 搬出材積:308.202m ³ 作業路開設:976m)						

H22年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む) 4,013円/m³

施業集約化の状況

- 前年度に実施した森林境界明確化促進事業による測量図を元に森林所有者へ戸別訪問し、集約化を進めた。

施業プランの活用状況

- 施業プランの活用には至っていない。精算時には林産経費の明細が分かるようにしている。

施業プランナーの養成状況

- 施業プランナー:1名(H22実績)
計3名

作業道の状況

- 幹線(トラック道 幅員3.6m)を1,674m開設(2路線 地元土建業者)
- 支線(クローラ道 幅員2.5m~3.0m)を1,846m開設。(2路線 外注、組合各1路線)

作業道開設



- フォワーダによる搬出を実施した作業路であるが、4駆駆動車であれば走行可能。

作業道改良後



- 点線が当初の地盤高。くぼみにより雨水が溜まるため、丸太組により地盤を上げた。

作業システムの状況

- ・平成22年度の素材生産性:4.25m³/人・日(チェンソー造材時は3.38m³/人・日)
(プロセッサ造材時は4.60m³/人・日)
- ・造材は、生産性の向上、労働強度の軽減を目的として、ハーベスタ又はプロセッサをこれまで以上に活用した。
(メインシステム:チェンソー(伐倒)→グラップル(集材)→プロセッサ(造材)→フォワーダ(運搬)→グラップル(積込等)→8tトラック(運搬)
(ハーベスタ)

集材工程



造材工程



その他

- ・中間土場での仕分・検知がスムーズに行えるようになり、組合内部における経費の軽減も図られたことで、エリア内の9割程度がこの土場を活用して製材工場へ直送できた。
- ・福岡柏原地内の事業地で県の「地域森林管理・経営に関する研修会」及びオペレータ養成研修により、森林技術者の技術の向上が図られた。
- ・森林技術者3名が日吉町森林組合で4日間、集約化及び技術者の配置等を研修した。

森プロの成果

- ・プロセッサ・ハーベスタの積極的な活用により、生産性が向上した。利用間伐の施工方法は、10年後に再度伐採できるようなるべく素性の良い立木を多く残しながら定性間伐を行い、作業実施後は展示林として活用することで周辺地域の森林所有者の啓発に効果があった。

今後の課題

- ・補助金が有利に活用できた事で所有者への還元が2年続けて4千円/m³強であったが、今後は補助金が不透明なこともあり、組合内部のコスト意識、生産性の向上がさらに求められる。
- ・作業道については、森林所有者本人が車で山へ行けるようになり利便性が向上するが、組合が事業に必要なため開設しているという事が色濃く思われている。所有者への利益に繋がることを理解していただくような説明を尽くす必要がある。